

「宣誓」

たきざわ
滝澤

たかひろ
貴弘

●NTT労働組合・組織部長

私の心に深く刻まれている宣誓を紹介したい。

「東日本大震災から一年、日本は復興の真っ最中です。被災をされた方々の中には、苦しくて心の整理がつかず、今も、当時のことや、亡くなられた方を忘れられず、悲しみに暮れている方がたくさんいます。人は誰でも答えのない悲しみを受け入れることは苦しくてつらいことです。しかし、日本が一つになり、その苦難を乗り越えることができれば、その先に必ず大きな幸せが待っていると信じています。だからこそ、日本中に届けましょう。感動、勇気、そして笑顔を見せましょう、日本の底力、絆を。われわれ、高校球児ができること、それは、全力で戦い抜き、最後まで諦めないことです。今、野球ができることに感謝し、全身全霊で正々堂々とプレーすることを誓います」。

これは、2011年3月11日に発生した「東日本大震災」から一年が経過した、2012年3月21日に、震災で甚大な被害を受けた宮城県から出場した『石巻工業高等学校野球部主将』が、第84回選抜高校野球大会で行なった選手宣誓である。

私が、週末を共にしている少年野球の子供たちには、毎年、この言葉を伝えている。なぜこの言葉を子供たちに伝えるのか。それは、「“感謝”の気持ちを絶対に忘れないこと」、そして「今、野球が出来ているのは、自分の頑張りとともに、支えてくれている仲間や家族がいることを忘れないこと」、なにより「甚大な被害を受けた『東日本大震災』をはじめとした災害の記憶を“風化”させないこと」にある。

現在でもなお、東北3県では、毎週、国営放送で災害に関する情報が放映されており、新聞では被害等の状況が伝えられている。しかし、東京をはじめとした地域では、節目での報道はあるものの、日常で触れられる機会は限られる状況になっている。

2015年は、1995年1月17日に発生した「阪神・淡路大震災」から20年、そして戦後・被爆70年を迎える。

現役世代である私たちは、「『東日本大震災』から懸命に復興を遂げようとしている状況や、『阪神・淡路大震災』等からさまざまな苦難を乗り越えて復興を遂げた状況、さらに、私たち祖父母の世代がどれだけの苦労を積み重ね、現代の平和な日本を築いてきたか…」、ということを次代に繋いでいかなければならない。

私たちの生活を瞬時に奪い去る災害等は“いつ”“どこで”発生するか分からない。だからこそ組織は過去の教訓に学び、有事に備えるとともに、仲間や家族の生活環境を守るため、各方面に必要な対策を取りつつ“風化に抗する”普遍的な運動として、平和運動をはじめとしたさまざまな運動を今後も展開していくことが必要なのだ。

なぜならば、先達が築き上げてくれた環境を守ること、そして、子供・孫の世代が安心して生活を送ることができる環境をこれからも創造し続けることが、私たちに課せられた責務だからである。